

日立コンビット®

(日立コンクリート釘打機)

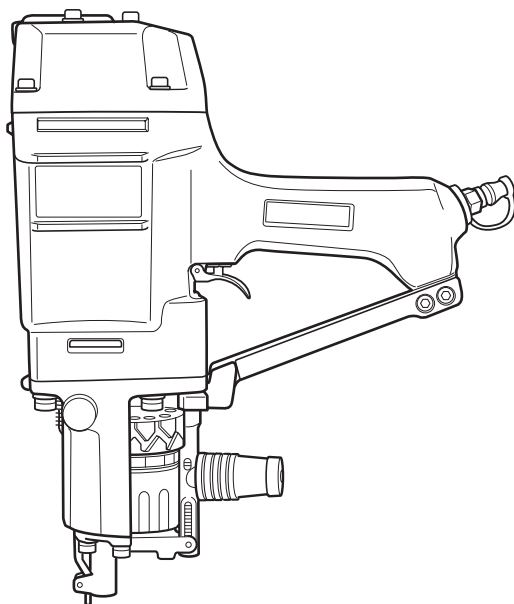
NC 65A

取扱説明書

このたびは日立コンビットをお買い上げいただき、ありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



目 次

ページ

釘打機の安全上のご注意	2
コンピットの使用上のご注意	8
各部の名称	9
仕様	10
使用釘について	10
標準付属品	12
別売部品	12
用途	12
作業前の準備	13
ご使用前に	14
使い方	17
保守・点検	21
エアコンプレッサと作業の速さ	23
別売部品の使い方	23
オイラー・フィルタ・減圧弁	24
使用潤滑油	24
ご修理のときは	25
全国営業拠点	裏表紙

⚠ 警告，⚠ 注意，注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」と「⚠注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「注」の意味も説明します。

⚠ 警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠ 注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品の据付け，操作，メンテナンスに関する重要なお注意。

釘打機の安全上のご注意

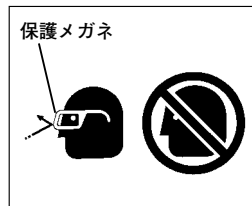
- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警 告

作業前

- ① 保護メガネを使用してください。
- 作業中は、保護メガネを使用してください。
 - まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
コンクリートの破片や打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。

①



- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

②



- ③ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

- ④ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。

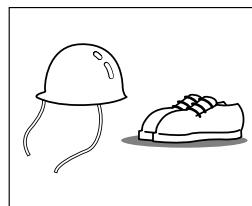
- ⑤ きちんとした服装で作業してください。

- ⑥ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

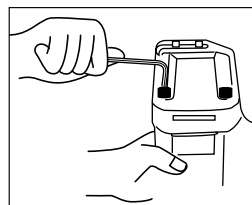
- ネジ類の締め付けがゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

④



⑥

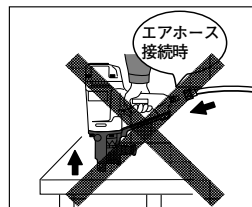


⚠ 警告

⑦ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
 - プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
 - 射出口を人体に向けない。
- 誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

⑦

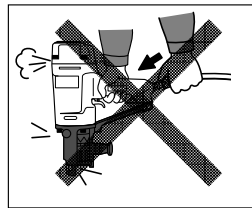


⑧ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。

異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑧



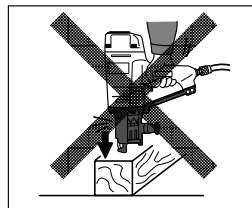
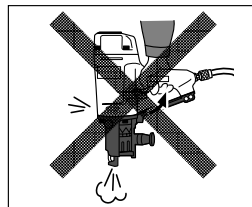
⑨ 使用前に安全装置の確認をしてください。

本機は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。

異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

⑨



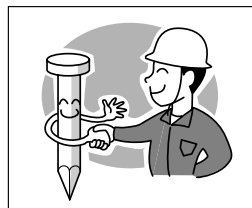
⑩ 用途にあった作業に使用してください。

- 本機は、木材を介してコンクリートや鋼板への釘打ち作業を目的とした工具です。
- 指定された用途以外には使用しないでください。

⑪ 指定の釘を使用してください。

指定された釘以外のものを使用すると、けがや本機の故障の原因になるので使用しないでください。

⑪



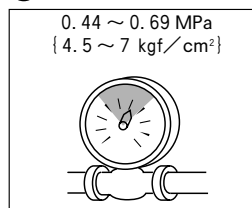
警告

- ⑫ 子供を近づけないでください。
- 作業者以外、釘打機本体やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
 - 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
- ⑬ 作業場は、いつもきれいに保ってください。
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑭ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

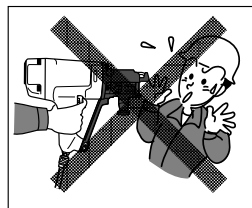
作業中

- ① 指定の空気圧力で使用してください。
- 本機の使用空気圧力範囲は $0.44 \sim 0.69 \text{ MPa}$ $\{4.5 \sim 7 \text{ kgf/cm}^2\}$ です。この範囲内で使用してください。
 0.69 MPa $\{7 \text{ kgf/cm}^2\}$ を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。
- ② 人体に射出口を向けないでください。
- 人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ③ 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、本機やエアコンプレッサを使用しないでください。
釘を打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

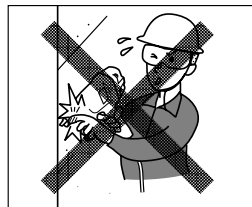
①



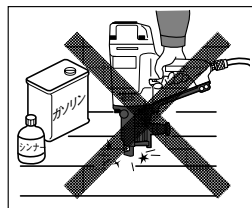
②



③



④

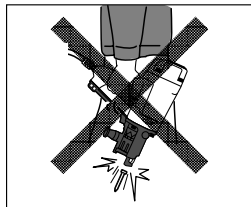


警告

⑤ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- 釘を装てんするときや調整などをするとき、引金に指をかけないでください。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

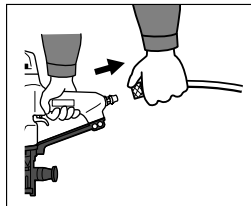
⑤



⑥ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘まりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



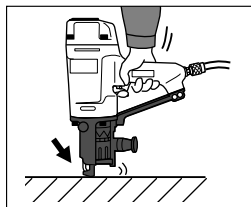
⑦ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑧ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
釘がはね返ったり、本機が反発することもあり、けがの原因になります。

⑧

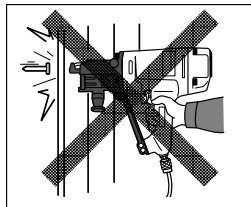


⑨ 作業中はまわりの人に注意してください。
コンクリートの破片や打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑩ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。
薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑩



警告

- ⑪ 機体の反発に注意してください。
● 硬い所に打った場合、本機がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

- ⑫ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

- ⑬ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。

転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

けがの原因になります。

- ⑭ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。

不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。

- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。

後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。

- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。

後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。

- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

- ⑮ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

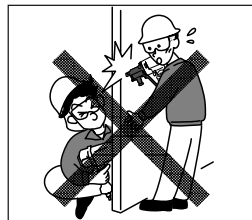
- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。

- 常識を働かせてください。

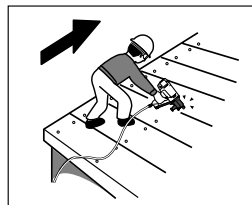
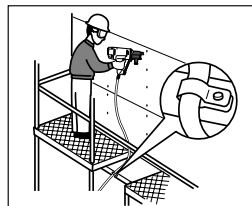
- 疲れているときは、使用しないでください。

- ⑯ エアホースをつかんで本機を移動しないでください。

⑫



⑭



⚠ 警告

- ⑰ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

- ⑱ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

⑱



作業後

- ① 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

釘を残しておくと、次に使用するときなど、誤って作動した場合に、けがの原因になります。

- ② 本機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当たたまま放置しないでください。

- ③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

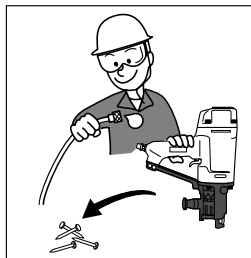
- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または錠のかかる所に保管してください。

- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。安全性が損なわれ、けがの原因になります。

- ⑥ 釘打機の修理は、専門店で依頼してください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店、または日立工機電動工具センターにお申し付けください。

修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

①



コンビットの使用上のご注意

先に釘打機として共通の注意事項を述べましたが、コンビットとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

警 告

① 市販のコンクリート釘で「赤釘」と呼ばれるものは、使用しないでください。

赤釘は頭が丸く硬度が高いため、折損して飛散する恐れがあり、けがの原因になります。

- 赤釘は、赤色の塗装がしてあるので、容易に見分けられます。

② 釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。

斜めに打つと、釘がコンクリートや鋼板に入らず、曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。

③ コンクリートへの釘打ち作業は、次のことに注意してください。

- 釘は市販コンクリート白釘や火薬銃用釘を使用してください。
- コンクリートに直打ちしたり、直接板金などを取り付ける作業はしないでください。コンクリート片がはねたり、釘が曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- コンクリートの端に釘を打たないでください。
コンクリートが割れて飛散したり、釘がそれて飛ぶ恐れがあり、けがの原因になります。
コンクリートの端から 10 cm 以上離して打ってください。
- 物を吊り下げる所 (配管の吊り下など) へ使用しないでください。

④ 鋼板への釘打ち作業は、次のことに注意してください。

- 鋼板は厚さ 3.2 mm 以下を使用してください。
- 釘は、軸径 3.8 mm 以上の市販コンクリート白釘または、火薬銃用釘を使用してください。
- 鋼板に直打ちしたり、直接ラス網・トタンなどを取り付ける作業はしないでください。釘が曲がってはね返る恐れがあり、けがの原因になります。
- 屋根・天井へは使用しないでください。

⑤ 多数回打ちをする場合は、釘送りをしないでください。

釘の上に釘が打たれるため、はね返る恐れがあり、けがの原因になります。

⑥ 釘を打つときに、強く機体を押し付けしないでください。

- プッシュレバーを動作できる程度の力で機体を保持してください。大きな反発を受けた場合、けがの原因になります。

⑦ 釘送りは、必ず打つ直前にハンドル操作により行ってください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⚠ 警告

- ⑧ マガジンの着脱をするときは、次のことに注意してください。
- 必ず引金から指をはなし、エアホースをはずす。
 - 射出口を人体に向けない。
 - エアプラグを上に向けておく。マガジンを誤って落とした場合に、けがの原因になります。
- ⑨ マガジンはずした状態で使用しないでください。
- ドライブビットが露出しているため、誤って指などに当たったり、曲って破損する恐れがあり、けがや事故の原因になります。

各部の名称

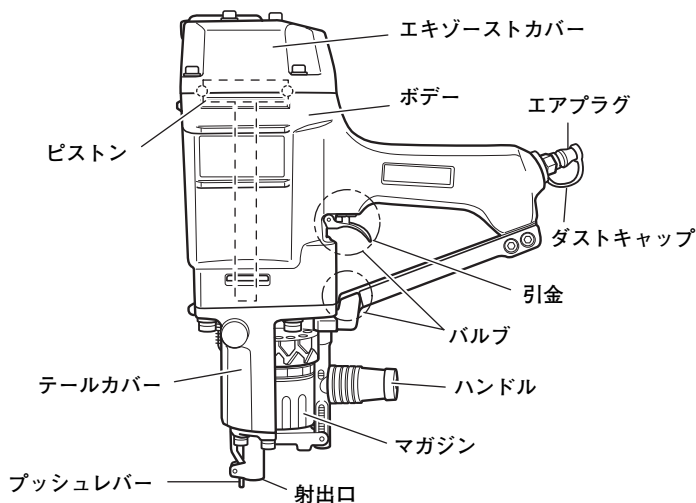


図 1

仕 様

動力形式	ピストン往復動式
使用空気圧力	0.44 ~ 0.69 MPa {4.5 ~ 7 kgf/cm ² }
能力(使用釘)	市販コンクリート白釘：38 ~ 65 mm 火薬銃用釘：40 ~ 60 mm
釘の装てん数	12本(回転式マガジン)
製品の大きさ	長さ300 mm×高さ372 mm×幅110 mm
製品質量	4.1 kg
釘送り方式	ハンドル手動方式
使用エアホース(内径)	6 mm 以上

使用釘について

警 告

- 市販のコンクリート釘で「赤釘」と呼ばれるものは、使用しないでください。赤釘は頭が丸く硬度が高いため、折損して飛散する恐れがあり、けがの原因になります。
赤釘は、赤色の塗装がしてあるので、容易に見分けられます。

本機は、次に示す寸法の市販コンクリート白釘、火薬銃用釘が使用できます。
釘打作業の用途に合わせて適切な釘をお選びください。
釘は本コンビットお買い上げの販売店でお求めください。

頭 径	5.4 ~ 8.2 mm
軸 径	2.8 ~ 4.2 mm
全 長	38 ~ 65 mm

コンクリート、鋼板などに打ち込む場合は、必ず市販コンクリート白釘（その一例を図2に示す）または火薬銃用釘（その一例を図3に示す）をご使用ください。

火薬銃用釘は特に鋼板用に向いています。

市販コンクリート白釘（寸法単位：mm）

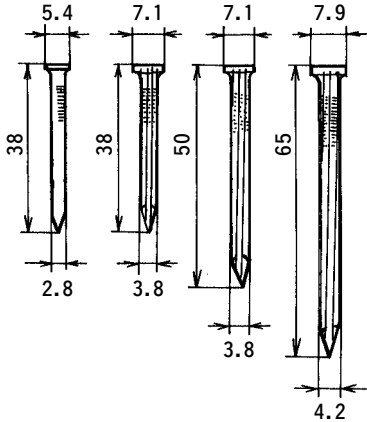


図 2

火薬銃用釘（寸法単位：mm）

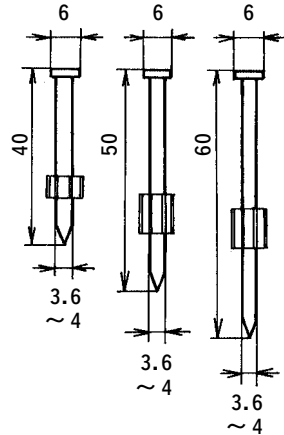


図 3

1. 釘頭の大きさ……………

市販のコンクリート釘は、頭の大きいものが混入している場合があります。

コンビットで打てるかどうかは図4のようにして確認してください。即ち、マガジンを逆にして釘頭を穴に入れてみて、ゆるく入るものは使用できますが入らないものは使用できません。

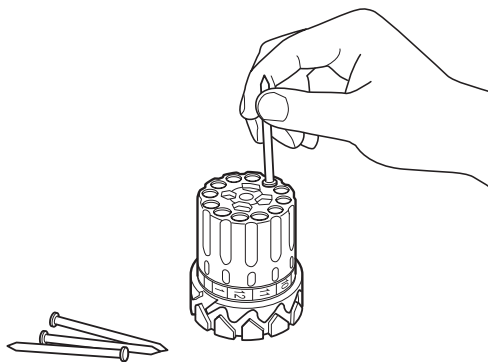
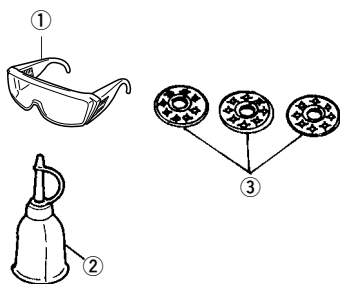


図 4

注 • 頭径 8.2 mm 以上のものは、マガジンをいためたりマガジンの中でつまったりすることがありますので、使用しないでください。

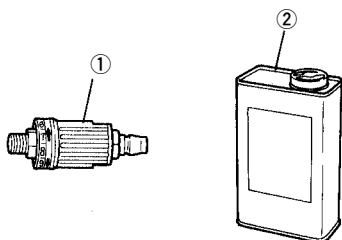
標準付属品



- ① 保護メガネ…………… 1 個
 - ② 油さし…………… 1 個
(釘打機・タッカ用オイル入り)
 - ③ ネイルホルダ…………… 3 枚
- 〔③は予備品です。
配置位置は図 19 をご参照ください。〕

図 5

別売部品



- ① 打込調整器
- ② 釘打機・タッカ用オイル

図 6

用 途

- 木材を介して、コンクリート・鋼板 (厚さ 3.2 mm 以下) へ釘を打つ下記の作業
- 鉄筋コンクリート造住宅 (アパート, マンション等) の内部造作下地づくり
主として木造内装の土台, 天井野縁, 胴縁, 内壁, タルキなどの固定
 - 鉄筋コンクリート造学校, 事務所, 体育館などの内部造作下地づくり
 - 鉄骨造住宅の内部造作下地づくり

作業前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1. エアホースの準備……………

本機の使用エアホース内径は6 mm 以上です。エアホースをエアコンプレッサ側にしっかり接続してください。

注 ・エアホースの長さは、30 m 以内のものをお使いください。エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。

2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する……………

水や油が内部にたまりますと、さびが発生したり故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。(詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。)

3. 釘の準備……………

釘打ち作業の用途にあった釘を準備してください。(10～11 ページ参照)

4. 安全点検……………



警 告

- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ネジ類の締め付けがゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

21 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行なってください。

ご使用前に



警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

1. 空気圧力の確認……………



警告

- 本機の使用空気圧力の範囲は 0.44 ~ 0.69 MPa { 4.5 ~ 7 kgf/cm² } です。この範囲内で使用してください。

空気圧力は、釘打ち込み能力（釘径、釘の長さ、部材の堅さなど）に合わせて、0.44 ~ 0.69 MPa { 4.5 ~ 7 kgf/cm² } の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 0.44 MPa { 4.5 kgf/cm² } 未満または 0.69 MPa { 7 kgf/cm² } を超えますと本機の性能、寿命、安全に影響しますので、エアコンプレッサの空気圧力、容量、配管に十分考慮が必要です。

2. 給油について……………

- 本機を使用する時は、エアーセット（24 ページ参照）をエアコンプレッサと釘打機の間に取り付けてください。エアーセットからの給油は各部の動作が円滑になるとともに本機の寿命も長くなり、またさびの防止にもなります。オイラーの油滴下量は 5 ~ 10 回打込み毎に 1 滴の割合で調整してください。
- オイラーを取付けない場合は、必ず 1 日に 2 回以上、作業の前後に 2 mL { 2 cc } 程度の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり作業後の油はさび止めとなります。

注

- 作業前の場合、給油直後に作業をすると、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散ります。油がかかっても支障のない所で 2 ~ 3 本釘を打って、それから作業してください。
 - 作業後の場合、注油後 1 本だけ釘を打つと、油が内部に行き渡ります。
- 油は付属の油をご使用ください。その他、市販で使用できる油を 24 ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

3. エアホースを接続する……………

警告

本機にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

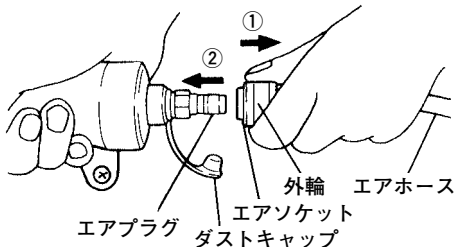


図 7

本機にエアホースを接続する場合はエアプラグからダストキャップをはずし、図7のように、①エアソケットの外輪を引き、②エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

(手を離すと外輪は戻ります。)

4. 釘を入れる……………

警告

- 釘を装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

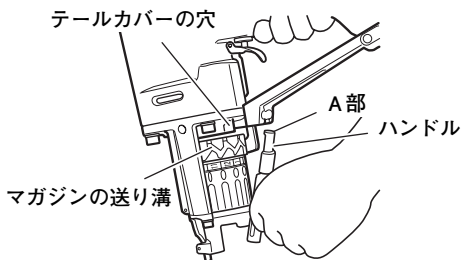


図 8

- 図1に示すハンドルを手で持ち、多くとも12回上下動すると(図15参照)、ハンドルの先端(A部)がテールカバーの穴からはずれます。(図8)

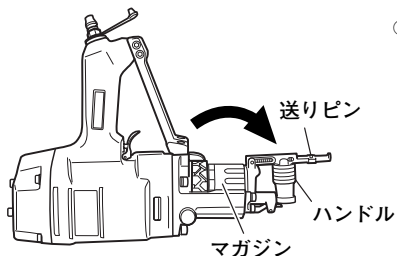


図 9

- エアプラグが上になるように機体を置いて、ハンドルを矢印の方向に開いてください。(図9)

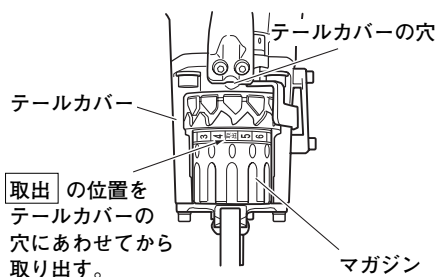


図 10

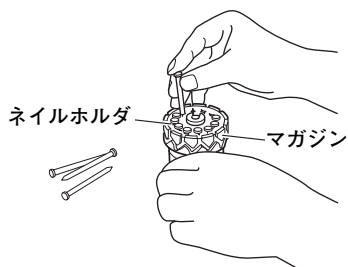


図 11

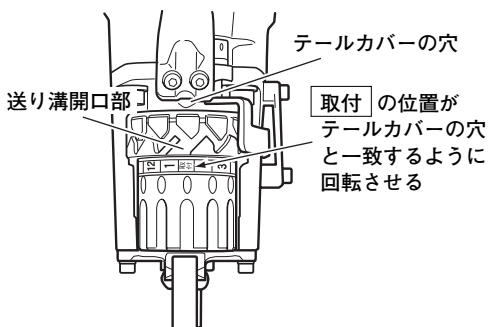


図 12

- つぎに、テールカバー内のマガジンを回転させ、**取出**の位置をテールカバーの穴にあわせて、マガジンを取りはずしてください。

(図 10)

脱落防止のため **取出**位置以外では、はずれない構造になっています。

- 取りはずしたマガジンに釘を入れます。このとき、釘は釘頭がネイルホルダの位置まで入るように押し込んでください。(図 11)

- 釘を入れたマガジンをテールカバー内に挿入します。

マガジンの **取付**位置がテールカバーの穴と一致するようにマガジンを回転させます。こうすると、マガジン外周に設けてある送り溝の開口部が正面になります。(図 12)

- 図 9 の矢印方向と逆方向にハンドルを回転させ、図 8 の姿勢でハンドルを押し下げ、ハンドルの先端(A部)をテールカバーの穴にセットします。

このとき、マガジンの送り溝内にハンドルの送りピンが入ります。

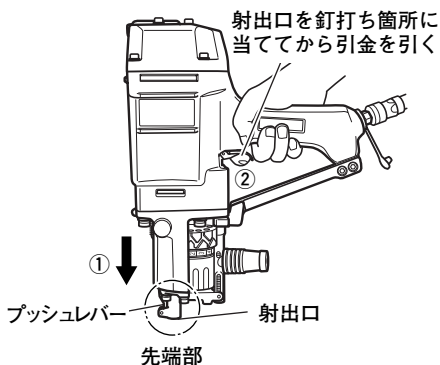
使 い 方

⚠ 警 告

- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に人体や手、足などを近づけて作業しないでください。
- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
- 釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。
- 釘を打つときに、強く機体を押し付けしないでください。

注 • 低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。

1. 釘の打ち方……………



釘を打つ所に射出口を押し当てて引金を引けば打ち込めます。

即ち、図13で①、②の順序で作業をしてください。

図 13

(1) 多数回打ちについて

警告

- 多数回打ちをする場合は、釘送りをしないでください。
釘の上に釘が打たれるため、はね返る恐れがあり、けがの原因になります。

一回の打ち込み動作で面まで打ち込めない場合は、釘送りをしないで再び釘頭を射出口に入れて引金を引きます。

2回で不十分な場合は3回4回と繰り返し打つことができます。

正しいセッティング 誤ったセッティング

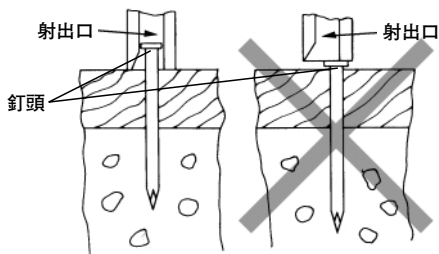


図 14

多数回打ちをするときは、正しいセッティングにより、釘頭を確実に射出口に入れ、射出口が打ち込み面に接してから、引金を引いてください。誤ったセッティングにより、釘頭の一部をドライブビットが叩くと、寿命を縮めたり、曲って折損したりする恐れがあります。(図14)

注 • 空打ちの注意

連続して釘を打っていると、釘がなくなったことに気がつかず、そのまま使用している場合があります。これを「空打ち」といい、空打ちを続けると各部に影響を与えますので、空打ちをしないようご注意ください。

(2) 安全装置について

本機は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、釘が発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、釘は発射しません。これは、釘を打つとき以外に誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。

(3) 釘送りについて

警告

• 釘送りは、必ず打つ直前にハンドル操作により、行ってください。

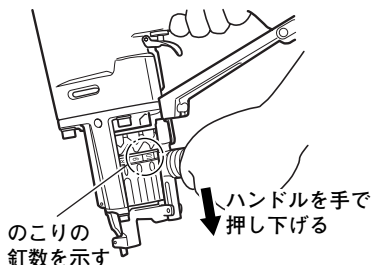


図 15

本機に釘を装てんした直後は、ハンドル操作をせずにそのままの状態打ち込みが可能です。

二本目以降の釘を打つときは、ハンドルを手で押し下げ、手をハンドルから離すとハンドル内に有るスプリングによってマガジンが回転し打ち込み可能な状態になります。(図 15)

また、マガジン内の釘を全部(12本)打ち終わった後ハンドルを手で押し下げると、ハンドルがテールカバーからはずれるので、釘がなくなったことが判ります。

図 15 で示されている数字は残りの釘数を表わします。

注 • ドライブビットが完全に戻っていない場合は、ハンドルを押し下げても釘送りを行うことができません。このようなときはそのままの状態打ち込み動作をし、ビットを完全に戻してから釘送りをしてください。

(4) コンクリートへの木材の取り付け作業

警告

- 釘は市販コンクリート白釘や火薬銃用釘を使用してください。
- コンクリートに直打ちしたり、直接板金などを取付ける作業はしないでください。
- コンクリートの端に釘を打たないでください。
- 物を吊り下げる所(配管の吊り下など)へ使用しないでください。

コンクリートへ打込まれる釘の長さは 15 ~ 25 mm 程度が標準です。下表を参考にして、釘の長さを選択してご使用ください。(図 16)

木材の厚さ	使用する釘の長さ	コンクリートへの貫入量
30 mm	38 mm	約 16 mm
35 mm	50 mm	約 23 mm
50 mm	65 mm	約 23 mm

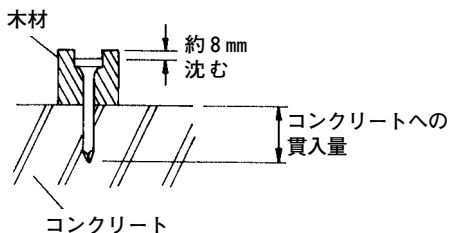


図 16

(5) 鋼板への木材の取り付け作業

警告

- 鋼板は厚さ 3.2 mm 以下を使用してください。
- 釘は、軸径 3.8 mm 以上の市販コンクリート白釘または、火薬銃用釘を使用してください。
- 鋼板に直打ちしたり、直接ラス網・トタンなどを取り付ける作業はしないでください。
- 屋根・天井へは使用しないでください。

鋼板へ木材を固定する場合は、鋼板への釘の貫入量が 15 ～ 25 mm 程度が標準です。

下表を参考にして、釘の長さを選択してご使用ください。(図 17)

また、木材は必ず厚さが 25 mm 以上のものを使用してください。

木材の厚さ	使用する釘の長さ	鋼板への貫入量
25 mm	38 mm	約 21 mm
35 mm	50 mm	約 23 mm
50 mm	65 mm	約 23 mm

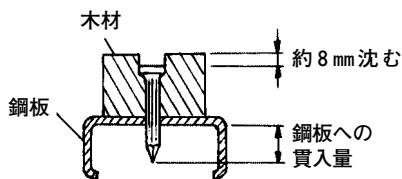


図 17

(6) 作業中断時、使用後のご注意

警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

注 • 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を 0 にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が 0 になります。

保守・点検



警告

- 釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

1. 各部取付けネジの点検……………

各部取付けネジでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締めなおしてください。ゆるんだままお使いになると、けがなど事故の原因になります。

2. ごみ・ほこりの防止……………

- ごみやほこりが内部に入らないよう、エアホース接続の際には、口元のごみをぬぐってください。
- 使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、本体内にごみが入るのを防いでください。

3. プッシュレバーの点検……………

プッシュレバー（9ページ参照）がスムーズに摺動するか確認してください。プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

4. マガジン周辺の点検……………

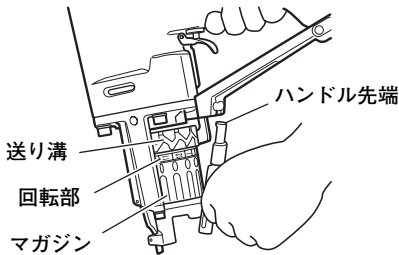


図 18

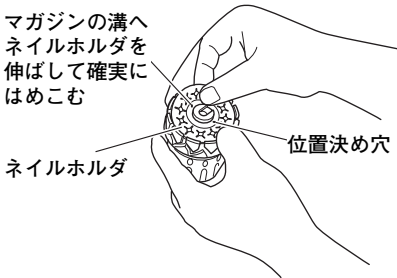
マガジンを取り出して、ときどき清掃してください。また回転部のホコリなども掃除してください。

マガジンの送り溝、回転部およびハンドルの先端には、掃除した後うすく付属の油を塗ってください。（図18）

さび止めと同時に動作をスムーズにすることが出来ます。

5. ネイルホルダの交換方法……………

ネイルホルダの釘装てん穴（花びら形穴）が、破れたり摩耗したりして釘を保持することができなくなったときは、新しい物と交換してください。



交換方法

ネイルホルダの外周及び内周が凸状になっている方を上向きにし、伸ばして回しながらマガジンの溝へ確実にはめこみ、その後ネイルホルダの2コの穴をピンに合わせて、位置決めしてください。

(図 19)

図 19

6. 作業後の保管は……………

注 ・エアプラグにダストキャップをさし込む時は、本機をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後は内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込んで保管してください。
- 長期間使用しない場合は、さび防止のため、エアホース取付口から給油し、2, 3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。また、鉄の部分やバルブの部分には付属の油をうすく塗布してください。
その他、使用できる油を24ページに示しましたので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。
また、油の中にごみがあると給気穴をふさいだり摺動部をいためる原因となりますので、清浄な油をご使用ください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、朝の始動が悪くなる場合がありますので暖い場所においてください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。

エアコンプレッサと作業の速さ

下表は日立釘打機用ハンディコンプレッサEC 6 SA 1 および日立エアパンチを使用して、1分間で打ち込めるおおよその本数を示したものです。下表を目安に適切なエアコンプレッサを選定してください。

作業の速さ (毎分合計打ち込み本数)

使用空気圧力 エアコンプレッサ および出力	0.44～0.59 MPa 4.5～6 kgf/cm ²	0.59～0.69 MPa 6～7 kgf/cm ²
0.4 kW	20～12本	12～8本
EC 6 SA 1 0.6 kW	30～19本	19～13本
0.75 kW	37～23本	23～16本
0.9 kW	42～26本	26～18本

なお、左表は1回の打ち込み動作で、釘が打ち込まれる場合を示しています。

別売部品の使い方

警告

- 別売部品を取り付けるときは、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。

打込調整器の使い方……………

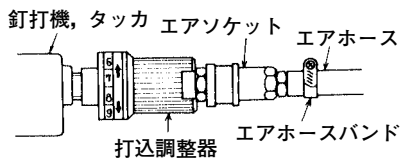


図 20

打込調整器(図6-①)は、釘打機・タッカのハンドル部に取付け手元で簡単に打ち込み深さの調整をするものです。(図20)

本器を使用すると、材料の堅さ、釘のサイズなどに合った打ち込み力が得られ均一な仕上がりととなります。

(詳細は打込調整器の取扱説明書を参照してください。)

オイル・フィルタ・減圧弁 …… (エアセット)

工具を最適の条件でお使いいただき、工具を長持ちさせるためオイル・フィルタ・減圧弁をご使用されるようおすすめします。これらは単体またはセットで市販されております。

(日立釘打機用ハンディコンプレッサ EC 6 SA1には取付きません。)

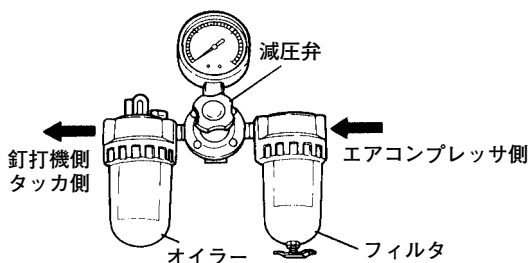


図 21

オイル……清浄で適量の潤滑油を自動的に供給できます。油は、日立釘打機・タッカ用オイルのご使用を推奨いたします。

その他使用可能な油を下記に示します。

5～10本打つ間に1滴落ちる程度に調整してください。

フィルタ……圧縮空気中の水分、ゴミなどを取り除きます。

減圧弁……エアコンプレッサの圧縮空気を必要な一定圧力に調整して使用できます。

使用潤滑油

釘打機・タッカに使用する潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名	
日立釘打機・タッカ用オイル		————— [別途販売しております]	
その他の オイル [市販品]	ベビコン油	日立ベビコン用オイル	
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄	SAE 10W, SAE 20W
	タービン油	タービン油各銘柄	ISO VG 32～68 (# 90～# 180)

注・潤滑油は必ず上表の油をご使用ください。不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

メ

モ

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼される時便利です。

お買い上げ日	年	月	日	販売店
製造番号(No.)				電話番号

- 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全国営業拠点

第一営業部	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0626(代)
北海道支店	〒060-0003	札幌市中央区北三条西四丁目(日生ビル) ☎(011) 271-4751(代)
東北支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東三丁目3番36号 ☎(022) 288-8676(代)
東京支店	〒108-6020	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟) ☎(03) 5783-0629(代)
中部支店	〒460-0008	名古屋市中区栄三丁目7番13号(コスモ栄ビル) ☎(052) 262-3811(代)
北陸支店	〒920-0031	金沢市広岡二丁目13番37号(ST金沢ビル) ☎(076) 263-4311(代)
関西支店	〒530-0001	大阪市北区梅田二丁目6番20号(スノークリスタル) ☎(06) 4796-8451(代)
中国支店	〒730-0011	広島市中区基町11番13号(第一生命ビル) ☎(082) 228-0537(代)
四国支店	〒761-0113	高松市屋島西町字百石1981 ☎(087) 841-6191(代)
九州支店	〒813-0062	福岡市東区松島四丁目8番5号 ☎(092) 621-5772(代)

- 電動工具ご相談窓口 — お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター 0120-20 8822 (無料)

※携帯電話からはご利用になれません。(土・日・祝日を除く 午前9:00～午後5:00)

日立工機株式会社